

学生大使 実施報告書

氏名:石川 大起

学部・学科(コース)・学年:工学部・情報エレクトロニクス学科(電気電子通信コース)

派遣先大学:ガジヤマダ大学

派遣期間:2/25~3/11

Ⅰ 日本語教室での活動内容

【日本語クラス】

日本語クラスに来る人はとても流動的であったため、単一の時系列で授業を行うとついていけない生徒が出てきてしまいます。そこで今回は日本人学生の人数の多さを活かして、カテゴリ別にチームを分けて授業を行いました。具体的には、ひらがな・カタカナ・漢字・会話の4カテゴリを作成しそれぞれのグループに人員を配属しました。生徒は好きなカテゴリを選ぶことが出来るのでついていけなくなるリスクを分散することができました。

私と現地学生が共通で理解できるほぼ完全な言語体系は英語の文法だと考えました。英文法と日本語なら一対一対応させることが出来ているためそれを用いて教えました。具体的には、

- 肯定文
- 否定文
- 疑問文
- 人称代名詞
- 命令形
- 仮定法
- 受動態

を教えました。日本語ネイティブの私たちの強みはテクニカルな面では発音だと思いました。ですから自分が発音することを積極的に行いました。

しかし、途中から会話クラスに配属されたときには、文法を教えることは逆効果となってしまいました。私たち日本人学生のもう一つの強みはこれまでの経験だと思います。私たちはこれまで日本で生活してきているわけですから高校生活の話や大学生活の話は新鮮だったようでした。また、指スマやタンメン、消しゴム戦争などのゲームも参加してやる事が出来るので良かったと思います。

【文化交流会】

では書道、かるた、けん玉、あやとり、折り紙のセクションに分かれて祭りの出店のような形で参加型交流ができるようにしました。他の参加者にはうどんやみそ汁、その他沢山のお菓子を持ってきた人もいましたが、ラマダン中だったのでここでのアイテムとしては使いませんでした。私は書道セクションにいましたが、多くの学生が自分の名前やアニメキャラクターの技名を書いていました。

【お別れ会】

最終日にはクイズ大会・お菓子取りゲーム・だるまさんが転んだを行いました。クイズでは日本に関するクイズをKahootで行いました。お菓子取りゲームは椅子取りゲームの椅子をお菓子に変えたものでした。最後のだるまさんが転んだではお菓子を一つ取ってからでないと鬼にタッチすることができないというゲーム性を持たせました。（多くのお菓子はこれらのゲームや景品として使われました。）

総括すると私たちは場面ごとに臨機応変に対応することが出来たのではないかと思います。しかし、改善点もそこにあり、その臨機応変が必要ないくらいの準備をすることも必要だと感じました。

2 日本語教室以外での交流活動

着いてすぐの週末には**ボロブドゥール遺跡** や **ジョグジャカルタ王宮** に行きました。遺跡の紹介では壁画や仏像の意味や背景を学びました。王宮では文化とその交流について知り、日本も交流していた記録がありました。

アクティビティ以外でも、日常の会話の途中で何度か「お祈りをしてくる」といわれることがあったのも印象的でした。ショッピングモールやアイスクリームショップ、寮にも必ず「Pray Room」と書かれた場所がありました。また、我々が滞在したのは断食期間中だったためその配慮に慣れるのが少し大変でした。断食中に何か食べ物を勧めてしまったことが何度かありました。（実際いくつかの飲食店では断食時間中は誘惑とならないようにシャッターを閉めていると教えてもらいました）彼らは am4:00 から pm6:00 まで断食なので am3:00 くらいに一度起床して朝ご飯を食べてから再び寝ていました。

このように、個人差はあれど 日常生活で宗教を行動として実践していることが多く、それは我々の宗教観と全く違いました。私はこれこそが彼らにとって宗教が精神的支柱として形成されていることに寄与しているのではないかと感じました。人間は弱い存在であることを前提とし、理性を保つための宗教たるのだと身をもって感じました。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回自分はチームリーダー的な存在としてではなく、チームフォロワーとして参加しました。私はこれまでリーダーを担っていた経験が多かったため、今回はフォロワーシップを学ぶことを一つの参加目標としていました。全体を通して、自分のどの程度のチーム参加がチームにとって適切であるかを見定めることが難しく感じました。しかし、仕事が冗長になり重複していないかを調節するのはリーダーの仕事であり、フォロワーはまず「決められている仕事」をやることが重要であり、追加で「その関連の領域」をただ認知しておくことが大切だと感じました。これによって、現場の進捗や問題の発生や予測をリーダーにフィードバック出来ます。また、フォロワーの積極的な参加がリーダーシップのリズムを作ることも往々にしてあるとも感じました。フォロワーはリーダーとの積極的なコミュニケーションを図ることが大切だということも学びました。フォロワーとしての多くのヒントを学ぶことに努めることが出来ました。

4 プログラムに参加した感想

参加目標のもう一つは海外学生と夢や目標を共有することであり、これは達成できたと思います。

【学生大使 実施報告書】

様々な学部や学科、学年の方たちと知り合うことが出来ました。目的意識がしっかりとしている学生にもたくさん会えました。これからの大学生生活でも場所は違えど頑張っている彼らを考えて頑張れるような気がしました。毎日疲れていてもその日を振りかえり、もっと明日を充実させるにはどうしたらいいかを考えチューニングする時間をとりました。すぐ変化させるのは無理なことでも少しの意識で変えられることはありました。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

英語と日本語を織り交ぜてコミュニケーションをすることが多かったのですが、内容の伝達のような会話はほとんど問題なくできました。しかし、感情の表現のようなコミュニケーションは苦手であり、これは英語に限らず日本語でも自分の苦手なことだとほぼすべての日常会話で再認識しました。私はそれができるようになることが相手との距離を縮めることだと感じています。感情をみせることは腹の内をみせることであり、それは相手に対する信頼の表現になると思います。これからは言語能力と感情の表現力の両方を向上させたいです。

6 現地での活動写真

写真1

アマドさん宅での夕食



【学生大使 実施報告書】

写真2

日本語教室（ひらがな・カタカナ）



写真3

日本語教室（文化交流会）



写真 4

ボロブドゥール遺跡にて

